

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2020.12)令和2年度:

,

# 災害急性期の避難所での看護職の役割に関する文献検討

佐々木優衣 佐崎美矩  
(指導：塩川幸子)

## 〈緒言〉

2011年東日本大震災、2016年熊本地震などの大規模な地震や2018年西日本豪雨など、日本では大規模災害が幾度も発生している。日本は、位置・地形・気象などの自然的条件から災害が発生しやすい国土となっている<sup>1)</sup>。このように、他国に比べ、自然災害が多い日本において、災害発生時に避難所は被災者にとって大きな役割を果たしている。避難所は緊急物資の集積、情報の発信と収集、在宅避難者が必要な物資を受け取りに来る場所である<sup>2)</sup>。避難所は、住まいを失い、地域での生活を失った被害者の拠り所となり、在宅で不自由な暮らしを送る被災者の支援拠点<sup>3)</sup>とされている。大規模災害の避難者数(大震災を除く)は、災害発生の翌日頃にピークを迎え、3日目辺りから減少し続け、自宅へ早期に戻れるのか、自宅等の修繕や仮設住宅等の住まいが確保されるまで滞在しなければならないのかが概ね把握できるのは7日目位までかかる<sup>4)</sup>。これらのことから、特に災害発生から7日目までの急性期に避難所の役割は大きいと考える。そして、被災者の生活の場である避難所では、看護職の存在は大きいと考えるが、避難所における看護について論じたものは少ない。

そこで、本研究は、災害急性期の避難所において看護職が果たしている役割を明らかにすることを目的とし、今後の避難所の看護のあり方への示唆を得る。

## 〈用語の定義〉

災害急性期：災害発生からおおよそ1週間までの時期<sup>5)</sup>を指すこととする。

災害支援ナース：看護職能団体の一員として被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるとともに被災者が健康レベルを維持出来るように被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職のこと<sup>6)</sup>。本研究では、看護職を災害支援ナースを指すこととする。

## 〈方法〉

研究対象：文献データベースは、医学中央雑誌 Web 版(以下、医中誌 Web)を用いた。「災害」「避難所」「看護」のワードで検索し看護学生を対象とした文献を除外して66件、「災害」「看護活動」では36件ヒットした(検索日：2020年5月6日)。原著論文を中心に選定し、研究目的に合致しないものを除外して7件の文献を対象とした。

分析方法：グレッグら<sup>7)</sup>の質的研究の方法を参考に分析を行った。文献から避難所における災害急性期の看護実践を示す内容を抽出し、コード化した。各コードの類似性によりサブカテゴリ化、カテゴリ化した。

倫理的配慮：文献資料は公開済みのものとし、出典を明記した上で、著作権法を遵守し使用した。

## 〈結果〉

7つの対象文献から、175コード、35サブカテゴリ、9カテゴリが抽出された(表1)。以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを〈〉で示す。

急性期の避難所において看護職は、【災害支援活動を行うための体制整備】、【被災地の力を活かした避難所運営】を行っていた。【被災者のニーズに合わせたケ

ア】や【避難所における日常生活の環境整備】、【避難所における健康管理】から医療ニーズを見極め【避難所の中での診療の補助】を行い、【被災者に対する心理面への支援】を心がけていた。さらに、【被災地でケアを円滑に行うための看護管理】を行い【職業倫理に基づく支援】をしていた。

表1 災害急性期の避難所での看護職の役割

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)
災害支援活動を行うための体制整備	被災者や被災地の情報収集(8) 現場の状況に合わせてケアを行うための物資調達(5) 現場の状況と問題点を判断し情報伝達する(12) マンパワーを分配し支え合う協力体制の構築(11) チームで継続したケアを行うためのシステム化(8)
被災地の力を活かした避難所運営	被災者の思いに沿った避難所の運営(2) 被災者同士のトラブルの調整(2) 被災者の安全確保(5) 被災地のキーパーソンとの協働(5)
被災者のニーズに合わせたケア	特別な配慮が必要な被災者に合わせたケア(8) 被災者の生活に視点を持ったケア(2) 医療ニーズを見極める(6)
避難所における日常生活の環境整備	介護の必要が高齢者が動きやすい環境を整える(13) 妊婦や乳幼児のために専用スペースを用意する(4) 家族・親戚・近所の人でグループを作る(6)
避難所における健康管理	被災者の健康管理のための状況把握(4) 慢性疾患を持つ人のセルフケア力を高める援助(5) 行動範囲の縮小による運動不足の解消(2) 被災者の楽しみとなるイベントを計画する(1) 被災者の清潔のための援助(2) プライバシーに配慮した排他環境の整備(3) 不衛生になりやすい生活の中での感染症蔓延予防(5)
避難所の中での診療の補助	限られた物資の中で診療を行うための環境づくり(3) 必要な人が診療を受けられるスクリーニング(6) 診療前のバイタルサインの測定(1) 受診につなげる(4) 傷病者の搬送に伴う援助(6)
被災者に対する心理面への支援	被災者の気持ちの理解(5) 被災者の心の負担を軽減(2) 被災者と良好な関係を築く(6)
被災地でケアを円滑に行うための看護管理	チーム内の情報を共有する為の調整(9) 業務を円滑にする為のマネジメント(4) 支援者に対する心のケア(4) 支援者へのハラスメントの防止(1)
職業倫理に基づく支援	看護職として使命感を持ち被災者の健康と生活を守る(6)

## 〈考察〉

### 1. 災害急性期の活動体制の整備と避難所運営

【災害支援活動を行うための体制の整備】は、ケアを行う前段階として(被災者や被災地の情報収集)、(現場の状況と問題点を判断し情報伝達する)、(現場の状況に合わせてケアを行うための物資調達)、(マンパワーを分配し支え合う協力体制の構築)、(チームで継続したケアを行うためのシステム化)が挙げられた。これらのことから災害急性期では被災地の状況に合

わせた情報収集やマンパワーの確保と適切な配置を行う必要があると考える。

【被災地の力を活かした避難所運営】では、〈被災者の思いに沿った避難所の運営〉、〈被災者同士のトラブルの調整〉、〈被災者の安全確保〉、〈被災地のキーパーソンとの協働〉を行い、被災者の考えを尊重し、被災地のネットワークを活用していた。これらのことは、職域を超えたチーム医療での指揮・命令系統や安全性を確保した支援体制づくり、資器材・インフラの確保・維持、組織やチーム単位の連携といった役割が広範に抽出されたという報告<sup>8)</sup>と一致する。避難所での看護活動には調整能力が求められると言える。

## 2. 避難所におけるケアの特徴

【被災者のニーズに合わせたケア】として〈特別な配慮が必要な被災者に合わせたケア〉、〈被災者の生活に視点を持ったケア〉、〈医療ニーズを見極める〉の3点が明らかになった。

【避難所における日常生活での環境整備】では、〈介護の必要な高齢者が動きやすい環境を整える〉、〈妊婦や乳幼児のために専用スペースを用意する〉など被災者に合わせて環境を整えていた。また、〈家族・親戚・近所の人でグループを作る〉ことでコミュニティの支え合う力を活かした支援に繋げていた。避難所ごとに空間配置図を定めたマニュアルがないことが課題とされている<sup>9)</sup>。避難所の設置は自治体の役割であるが、本研究では被災者の年齢や健康状態に合わせた避難所内の生活スペースの配置や環境調整を看護職が担っていた。今後は避難所のマニュアルに看護職の意見を反映させていく必要がある。さらに、避難所では物資の不足による生命の危機、不衛生で健康上の問題が発生しやすい環境、医療や介護の不十分さが課題とされている<sup>9)</sup>。本研究では看護職が【避難所における健康管理】として〈被災者の健康管理のための状況把握〉、〈慢性疾患を持つ人のセルフケア力を高める援助〉、〈行動範囲の縮小による運動不足の解消〉、〈被災者の楽しみとなるイベントを計画する〉という生活習慣への働きかけを行っていた。また、〈被災者の清潔保持のための援助〉や〈プライバシーに配慮した排泄環境の整備〉を行い〈不衛生になりやすい生活の中での感染症蔓延予防〉に努め、衛生面に配慮し活動していた。

また、【避難所の中での診療の補助】では、〈限られた物資の中で診療を行うための環境づくり〉、〈必要な人が診療を受けられるスクリーニング〉、〈診療前のバイタルサインの測定〉という避難所内での活動と、〈受診につなげる〉、〈傷病者の搬送に伴う援助〉という病院受診のための支援がみられた。看護職は【被災者に対する心理面への支援】として〈被災者の気持ちの理解〉をし、〈被災者の心の負担を軽減〉することで〈被災者と良好な関係を築く〉ことを心がけていた。

これらのことから、看護職には、避難所の健康課題やニーズを把握し、健康管理や日常生活援助、環境整備、診療の補助、こころのケアなど柔軟に幅広い役割を期待されていることが示唆された。

## 3. 被災地における看護管理のあり方

【被災地でケアを円滑に行うための看護管理】では〈チーム内の情報を共有する為の調整〉をしながら、〈業務を円滑する為のマネジメント〉を行っていた。また、〈支援者に対する心のケア〉、〈支援者へのハラスメントの防止〉を行っていた。【職業倫理に基づく支援】では〈看護職としての使命感を持ち被災者の健康と生

活を守る〉が挙げられた。新福ら(2015)は、支援者らは物資面等の準備は行っていたが心の準備は十分ではなく、支援者の休息を後回しにして被災者の経験を聞くことによる代理受傷や燃え尽きに至ると述べている。そのため、本研究において被災地で活動する支援者を支える看護管理の視点が抽出されたことは意義が大きい。今後、災害時の困難な状況下で、使命感を持ち被災者のために活動する看護職を支える体制づくりが望まれる。

## （結論）

本研究の文献検討から、災害急性期の避難所における看護職の役割として、診療の補助や日常生活、環境整備等に加え、協力体制作りや支援者へのケア等が明らかとなった。看護職は、被災地の支援関係者及び被災者との関係の構築、連携調整を行い、チームで継続的な支援につなげる調整役となることの重要性が示唆された。今後の課題として、災害時の看護管理のあり方についてさらに検討していく必要がある。

## 対象文献

- (1) 末永陽子, 山田覚(2012) 複雑化する災害における看護の役割—東日本大震災における急性期医療活動の経験を通して—, 高知女子大学看護学会誌, 38(1), 24-31.
- (2) 畑吉節未(2018) 災害看護実践行動の検討—災害医療経験を持つ医師の語りから—, 神戸常盤大学紀要, 11, 45-56.
- (3) 山中道代, 日高陵好, 黒田寿美恵(2018) 災害時の一般避難所生活における災害時要支援者への支援—高齢者、乳幼児・妊婦を中心に—, 日本医学看護学教育学会誌, 27(1), 28-33.
- (4) 安齋由貴子ら(2018) 東日本により津波被害を受けた高齢者の避難所での体験震災直後から災害急性期に焦点を当てて, 日本公衆衛生看護学雑誌, 7(3):134-14.
- (5) 作川真悟, 酒井明子(2018) 避難所において看護職が担うコーディネートに関する研究, 日本災害看護学会誌, 20(2):3-13.
- (6) 畑吉節未, 松田宣子(2011) 災害看護実践行動をもとにした災害看護教育プログラム開発のための基礎的研究—災害看護実践経験を持つ看護者の語りの分析, 日本災害看護学会誌, 12(2), 22-42.
- (7) 雨宮光太郎, 湯澤宏式, 村田志保(2017) 神城断層地震こころのケアチームの報告, 日農医誌, 65(5), 1006-1010.

## 引用文献

- 1) 内閣府: 令和元年版 防災白書, [www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h18/bousai2006/html/honmon/hm01010101.htm](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h18/bousai2006/html/honmon/hm01010101.htm), (閲覧日 2020.4.26)
- 2) 内閣府 (防災担当): 避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針, [http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605kankyo\\_kakuho.pdf](http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605kankyo_kakuho.pdf), (閲覧日 2020.4.22)
- 3) 内閣府 (防災担当): 避難所運営ガイドライン, [http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo\\_guideline.pdf](http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf)
- 4) 内閣府 (防災担当): 避難所の役割についての調査検討報告書 [www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/16hinanjokentou.pdf](http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/16hinanjokentou.pdf), (閲覧日 2020.4.22)
- 5) 西川愛海(2018) 東日本大震災以降の災害時期における看護活動, PhenomenainNursing, 2(1), 1-15.
- 6) 日本看護協会: 看護実践情報 災害看護, <https://www.nurses.or.jp/nursing/practice/saigai/index.html>, (閲覧日 2020.4.22).
- 7) グレグ美鈴: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版看護研究のエキスパートをめざして, 医歯薬出版, 2016.
- 8) 長沼幸司, 福田友秀, 武島玲子(2017) 災害急性期の看護の役割を焦点とした災害看護教育の方向性に関する文献検討, 日本集団災害医学会誌, 22(1), 1-8.
- 9) 安齋由貴子, 桂晶子, 坂東志乃, 他(2018) 東日本大震災により津波被害を受けた高齢者の避難所での体験—震災直後から災害急性期に焦点をあてて—, 日本公衆衛生看護学会誌, 7(3), 134-142.
- 10) 新福洋子, 原田奈穂子(2015) 東日本大震災における災害医療支援者の心理状況, 聖路加看護学会誌, 18(2), 12-22.